

邦人司教区設立80周年記念行事

巡礼「パリ外国宣教会宣教師たちの故郷を訪ねて」③

私もイエスに導かれる羊

ペルー神父さま、フーレ神父さま、ハルブ神父さまの出身小教区の訪問・交流を終えての帰り道、羊の群れを見つけて、バスを停車し記念撮影となった。

「お告げのシスター集まれ、純心のシスター集まれ、信徒集まれ」……羊たちも次第に牧場の片隅へ集まりつつあった。「どうして集まってくるのかなあ」と



フレノ神父出身地の教会

宣教師は、私たちの恩人

の声を耳にし牧場の後方を見ると、小さな牧羊犬が懸命に走り回り、遅れている羊たちを追いつけていた。この様子を目にしてふと思った。私も羊。世の中のうまい餌に惑わされたとき、近くにいて引き戻してくださる方は誰だろうか？

これまでもこれからも宣教師(司祭)たちに感謝しながら、そして、論(さと)してもらいつつ、今生きる私も迷える子羊にならないように祈りながら暮らしたいものです。(植松教会 松永光男)



地元の人々と楽しい昼食会

を日本人と分かち合うためでした。キリストの愛を生きる人は、人々を癒やし、慰め、助け、キリストの愛を新たに感じることが出来ます」と話されました。美しく荘厳な聖歌の中、豊かな祝福と恵みをいただきました。

ミサ後、教会の広場には、ワイン・ジュース・手作りケーキが用意され乾杯。その後、司祭館前に



司教さま他6人の司祭の共同司式による感謝ミサが行われました。主任神父さまから、皆さんを受け入れることは大きな喜びです。160年前、フレノ神父さまは、この教会で洗礼を受け、26歳の時、日本に行きました。殉教の町から平和の祈りが届くことを信じています」という言葉をいただきました。

その後、高見大司教さまは説教の中で、「神父さま方がすべてを懸けて日本に宣教にいられたのは、キリストの愛に動かされて、キリスト信者として徹底的に生きること」

46年、帰国して教区総代理。49年、ワシントン市のカトリック大学に留学。社会学専攻。51年帰国。1年後、旧カトリックセンターの幼稚園園長。純心短期大学教授。55年5月3日、中町教会にて駐日教皇庁公使フルステンベルグ大司教(当時)により司教叙階、鹿児島教区初代教区長に就任。62年10月から65年12月、第2バチカン公会議の全会期に出席。69年3月、パウロ山口愛次郎大司教の後任に長崎大司教区第7代教区長として着任。71年、カトリックセン

第6回

ヨゼフ 里脇浅次郎枢機卿



枢機卿略歴

1904年2月1日、旧外海町出生。28年、長崎公教神学校哲学科卒業。32年12月、教皇庁立ウルバノ大学神学科

卒業。同年12月17日、布教省長官ロッセム枢機卿により司教叙階。33年、ウルバノ大学大学院で神学の研究を続け、神学博士号を取得し、帰国。同年9月、大浦天主堂主任、教区会計、教区書記長を兼任。39年、中町教会主任。41年5月から台湾教区長、台湾教区の発展に貢献。

46年、帰国して教区総代理。49年、ワシントン市のカトリック大学に留学。社会学専攻。51年帰国。1年後、旧カトリックセンターの幼稚園園長。純心短期大学教授。55年5月3日、中町教会にて駐日教皇庁公使フルステンベルグ大司教(当時)により司教叙階、鹿児島教区初代教区長に就任。62年10月から65年12月、第2バチカン公会議の全会期に出席。69年3月、パウロ山口愛次郎大司教の後任に長崎大司教区第7代教区長として着任。71年、カトリックセン



10月10日腎臓がんのため米国ペンシルベニア州ヴィラノヴァ本部修道院で帰天。77歳。

10月10日腎臓がんのため米国ペンシルベニア州ヴィラノヴァ本部修道院で帰天。77歳。

1960年城山教会助任、63年教会主任・聖マリア学院理事長、75年福

●祈りの一日 ①11月22日(木) ②12月4日(火) 9時50分〜15時半

●ともに祈る日々 月17日(土) ①11月17日(土) ②11月15日(土) ③11月17日(土) ④11月17日(土) ⑤11月17日(土) ⑥11月17日(土) ⑦11月17日(土) ⑧11月17日(土) ⑨11月17日(土) ⑩11月17日(土) ⑪11月17日(土) ⑫11月17日(土) ⑬11月17日(土) ⑭11月17日(土) ⑮11月17日(土) ⑯11月17日(土) ⑰11月17日(土) ⑱11月17日(土) ⑲11月17日(土) ⑳11月17日(土) ㉑11月17日(土) ㉒11月17日(土) ㉓11月17日(土) ㉔11月17日(土) ㉕11月17日(土) ㉖11月17日(土) ㉗11月17日(土) ㉘11月17日(土) ㉙11月17日(土) ㉚11月17日(土) ㉛11月17日(土) ㉜11月17日(土) ㉝11月17日(土) ㉞11月17日(土) ㉟11月17日(土) ㊱11月17日(土) ㊲11月17日(土) ㊳11月17日(土) ㊴11月17日(土) ㊵11月17日(土) ㊶11月17日(土) ㊷11月17日(土) ㊸11月17日(土) ㊹11月17日(土) ㊺11月17日(土) ㊻11月17日(土) ㊼11月17日(土) ㊽11月17日(土) ㊾11月17日(土) ㊿11月17日(土)

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3

TEL(095)847-7151 844-1420

ながさきせきちょう 長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町6-17 岩永ビル

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社

西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 寛己

本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地

TEL (0956) 31-8268

フリーズドフラワー展示のご案内

★お花と一緒に茶しませんか★

生花を特殊加工した枯れない花のクリスマスアレンジです。

場所: カトリックセンター (レストラン)

日時: 11月30日(金)〜12月2日(日) 11時〜16時

問合せ先: 森山よし子 TEL 095-850-3270

長崎大司教区主催

ながさき巡礼(長崎・外海・平戸・不動山・島原) ~列福記念 長崎教区ゆかりの福者44人の足跡を訪ねて~

日時: 平成19年11月23日(金)〜25日(日) 2泊3日

11月23日 8:00 長崎カトリックセンター集合、出発

西坂殉教地ー黒崎・出津ー横瀬浦ー田平ー生月島(泊)

11月24日 平戸巡礼ー不動山殉教地ー島原(泊)

11月25日 雲仙ー島原城ー原城跡ー17:00 長崎着、解散

参加者: 先着25人(最少催行人数15人)

参加費: 35,000円(2泊泊宿泊料、昼食3回、交通費、入館料他)

申込・問合せ先: 長崎巡礼センター

(TEL) 095-842-2393

(FAX) 095-846-2822

※ FAXでお申込みの際は、氏名、性別、生年月日、住所、電話番号をご記入ください。

聖トマス西と15殉教者祭



去る9月23日に、中町教会で信徒約500人と20人の司祭が参加して殉教者祭が行われた。司祭は高見大司教が不在のため長崎南地区長の野下千年師。

参加者は、西坂殉教公園から殉教者らのパネルを先頭に、ロザリオを唱え中町教会まで行列、教会において26聖人記念館の結城了悟師から16人の殉教とその今日の意義についての講話を聞いた。次いで、司祭団と信徒代表者が教会横の記念碑の前で祈りと献花をし、ミサへ。ミサ前には殉教者一人ひとりの簡単な紹介があった。司式の野下師は自らがあずかった20年前の列聖式のことを説教の中で紹介した。

10月14日諫早教会(主任下川英利師)は、高見大司教を迎え、歴代の主任司祭、出身聖職者、近隣教会の司祭、来賓、信徒多数参加のもと、75周年記念の感謝のミサ、堅信式(大人4人を含む34人)を行った。大司教は受堅者の前に、信仰に誇りを持ってください、と宣教の心構えを説いた。午後からは会場を移し祝賀会を開いた。



75年前、40余人の信者から発足した小教区。今年千人余の大きな共同体

「単に過去を振り返るお祝いではなく、次世代を担う子供たちの信仰教育に力を入れなければならぬ」と力説。昨年9月には一般信徒23人の



05年4月から実施した



「典礼と生け花」研修会

講師

森田みちよさん

「聖堂の花を生けるといふことは典礼の一部です。美しく生けるといふより、その日の『典礼祭儀』が、さらに豊かになるように花を生けることができればよい」と思っている。

「主の変容」の主日で実習。福音を読み黙想、表現したいことをスケッチ。ペトロとヤコブとヨハネが目撃したまばゆい光の中でのキリストの出現、「栄光」を表現する。花材はひまわり、かすみ草、トルコ桔梗、フェニクス、鳴子百合などを準備し、生ける。

日本での典礼と生け花という運動が始まったのが25年前とか。聖書の黙想からテーマを探し、形にしているという。前教皇は「生け花による典礼表現は、花を通しての典礼奉仕を目指したもので『祭儀の尊厳と美しさ』

によりよく貢献するための試み」と、典礼憲章に述べている。「花屋さんから買ってきた花を生けるだけではなく、庭に咲いている花、散歩の途中で摘んできたエノコログサ(猫じゃらし)なども生けてみませんか、もつと身近な自然を取り入れてもいいのではないでしょう。か。(夢)は見る人に『風』を感じさせる作品を生けること」とも話している。

花との出会い、高校1年のころ、花の美しさに魅せられては40余年。花との縁は今なお続いている。愛宕教会所属、レデン・プートル会修道院勤務。

諫早教会創立75周年記念

記念誌発行で事業に幕

に成長。この歳月をかけて諫早教会を恵み導いた神とそれを守り育てた先達、恩人に感謝し、信徒一同心をひとつにして次の節目、100周年へ向けてスタートを切った。

奉仕の会を立ち上げ堅信式を迎えた。記念事業は聖パウロ三木像の建立、聖地巡礼、渡辺和子修道女の記念講演、教会内外に向けて熱い思い、信仰実践の呼び掛けは多くの聴衆に深い感動を与えた。事業最後を占める創立記念誌の発行も近い。

9月22、24日、「平和の使徒となろう」殉教者を想い、自分の信仰を生きる」のテーマで第33回カトリック「正義と平和」の発行も近い。



「花屋さんから買ってきた花を生けるだけではなく、庭に咲いている花、散歩の途中で摘んできたエノコログサ(猫じゃらし)なども生けてみませんか、もつと身近な自然を取り入れてもいいのではないでしょう。か。(夢)は見る人に『風』を感じさせる作品を生けること」とも話している。

聖母の騎士高校は10月4日長崎市チトセピアホールで「日本26聖人殉教410周年」を記念して学園劇を公演(写真)、ほぼ満席の盛況だった。

公演を終えた崎浜校長は「舞台で練り広げた演技力は彼らの強靱きょうじん」な精神力を垣間見た思いがする。高校の底力の源ここにあり、の気概を感じ頼もしく思った」と語った。

冷水教会献堂100周年

新上五島町文化財

冷水教会(青砂ヶ浦巡回)は、鉄川与助が、28歳の時設計施工した最初の木造の教会。当時の信徒戸数は22戸。現在105戸、1984年4月教会を拡張して、入り口と塔を鉄筋コンクリートで増築した。



オメッセージをいただき、主任司祭大山繁師のあいさつ、井上俊昭町長の祝辞、歴代助任司祭の中から、道向栄神父(福江に引退)が、助任とし働いていた当時(53年前)の教会の活動につ

いて話した。教会は、新上五島町の文化財に指定されている。長崎の教会群が世界遺産の暫定リストに、1月23日に追加されてから、教会を訪れる巡礼者、観光者とも増えている。障害者のためのトイレを

10月13日、長崎カトリック神学院で1泊体験入学を行い、長崎・大分各教区から14人の小中学生が参加した。



エーシオンで親交を深めた。翌日は感謝のミサの後、神学生各学年の代表が自分の召命について話し、神学院・南山学園を紹介した。

参加した子供たちの中から「入学したい」という声も聞かれた。「入学を希望する子供さんがいましたら、主任神父さまを通じて神学院へご連絡ください」(院長)。

司教と信徒合わせて9人が参加した。1日目は開会式と交流会。2日目は社会司教委員会シンポジウム「信教の自由と政教分離」。松浦司教の司会で、谷・溝部・高見各司教がカトリックの立場から見解を発表、信徒に直

なった。託児所も用意し、利用者もあった。講演は接語りかける貴重な機会となった。分ち合いの後、世界平和記念聖堂で、福岡県星野村で燃え続ける「広島原爆の火」が灯される中、ミサが行われた。

最終日は分科会と高見大司教による派遣ミサで盛会のうちに大会を終了、平和への熱い思いが伝わる3日間だった。

整え、記念行事の一環として、鐘楼そばのマリア像の前に20人程度のベンチを設置した。陳列棚を小学生の要理室の一角に造り、これまで教会で使われてきた、祭服、カリス、油で灯す聖体ランプ

(高さ80センチ)他の聖具などを展示した。当日は子供たちにジュースやお菓子、各家庭には記念品と赤飯が配られ、招待者と歴代のカリス、役員は「矢張りキリスト」で会食した。

10月7日、遠藤優子先生(精神保健福祉士・臨床心理士・ソーシャルワーカー)開業東京医科大学非常勤講師の講演会が、相浦教会において行われた。

テーマは「家庭と暴力」虐待はどこから? 遠藤優子先生(精神保健福祉士・臨床心理士・ソーシャルワーカー)開業東京医科大学非常勤講師の講演会が、相浦教会において行われた。

「一時折、小雨の降る中であつたが、聖堂の中は約300人でいっぱいになった。託児所も用意し、利用者もあった。講演は接語りかける貴重な機会となった。分ち合いの後、世界平和記念聖堂で、福岡県星野村で燃え続ける「広島原爆の火」が灯される中、ミサが行われた。

聖母の騎士高校は10月4日長崎市チトセピアホールで「日本26聖人殉教410周年」を記念して学園劇を公演(写真)、ほぼ満席の盛況だった。

公演を終えた崎浜校長は「舞台で練り広げた演技力は彼らの強靱きょうじん」な精神力を垣間見た思いがする。高校の底力の源ここにあり、の気概を感じ頼もしく思った」と語った。

司祭団親睦ソフトボール大会が行われた。残暑厳しさが残る秋空の下、司祭団の一喜一憂の声、好珍プレーに、集まった上五島の信者から温かい声援がずっと響



チーム、第3位 五島地区



9月25日(火)、新上五島町有川総合グラウンドにて

き渡っていた。司祭たちは、楽しくリフレッシュ、大きな感謝の喜びのうちにそれぞれの司牧の場へと帰っていった。

ソフトボール大会

司祭団親睦(新上五島町)

ソフトボール大会

ソフトボール大会

ソフトボール大会

ソフトボール大会

ソフトボール大会

ソフトボール大会

